

クロアチアで、自分のルーツを考えてみる

(A link to the roots through my grandpa in Croatia)

この夏、僕はクロアチア（ヨーロッパにある、小さな国です）にいる祖父のもとを訪ねました。実はこの旅行、本来は自分の計画になかったのですが、父が自身の里帰りにつきあうよう、しきりと僕を誘うので、どうにも断りきれなかったのです。滞在中はいろいろなことをして過ごしました……観光名所をまわったり。郷土料理やワインに舌鼓を打ったり。自然の中を散策したり。地域の人とふれあったり。

親類や友人たちとも、たくさん話をしました。僕自身の家系についていろいろと教えてもらうかわりに、僕の方からは日本（梶原）での今の暮らしのことを伝えました。持参していた梶原の写真や動画に、彼らは特に感心していました。自分たちの町と梶原に、似通ったところがあることに気づいたようでした。どちらも山の中にあること。農林業などの一次産業が盛んなこと。土地の歴史と伝統を、とても大事にしていること……。

でも、滞在中の一番の思い出は、何といても祖父といっしょに過ごした時間です。今年88歳になる祖父は、今でも一途に、自分の土地でいろんな種類の野菜を作り、ワインを醸造しています。その同じ土地を、僕のひいおじいさんが、その前にはひいひいおじいさんが耕していたわけです。そんな時の流れを考えた時、話を聞いたり、どんな手伝いができるかを知るのに、できる限り多くの時間を祖父と過ごすのは、僕にとってはある種の義務ではないか、と思えました。彼は僕をすぐに外へと連れ出しました……つまり僕は、収穫を手伝ったり、次の農作物を植えるために土を耕したりして過ごすことになったわけです。

今回の体験のおかげで、あちらの環境や家系のルーツと、僕は新しい結びつきをもつことができました。祖父の話を聞きながら、自分が耕し、作物を植えているまさにその土地の上で、ご先祖様たちが生きてきたことをつくづく実感しました。このことは僕にとって誇りでもあるし、家系の流れに連なっているという深い一体感を持つことにもつながりました。もちろん、人生の中で誰もがこうした体験ができるわけではありませんから、とても幸運なことだと思います。それぞれの家族が持つ伝統や家業、それに余暇の過ごし方に至るまで、後に続く者が継承していくことには意味があるものです。こうした考え方は日本人のみなさんから見ても、きっと理解しやすいのではないのでしょうか。



祖父のブドウ園です。歴史をしみじみ感じますね……。